「もう終わった青春白書」

登場人物

細川　守　高三の元野球部（引退済み）。主人公。実力はあるし長いことやってきたが、最後の最後で後輩にポジションをとられたあげくに試合結果はぼろ負けだったため、野球に対して楽しい思い出がない。なので野球をやっていてよかったのかと疑問を抱き、未だに悩んでいる。

宮崎　颯　高三の元野球部（引退済み）。後輩にポジションをとられてもなんら気にせず楽しく付き合えるタイプ。でもこの人はレフトあたりでレギュラー。わりと楽観主義。誰とでも仲良くなれるタイプだが主人公とは同じクラスのため特に仲がいい

白沢　明　主人公たちの数学の先生。主人公たちのことはほんとよく寝るなぁと思っていた。まあ部活しんどそうやし起こさんとこかとおもっていたけど今は別。受験シーズンなのに思いっきり寝るのでちょっと心配している

古谷　誠　高二の野球部。主人公たちの後輩。めちゃめちゃうまいがめちゃめちゃ努力するひと。とてもいいやつであり万人にかわいがられるタイプ。細川のポジションを奪った張本人

顧問　宮崎と細川の野球部の顧問。練習でも試合でもよく怒号を飛ばすタイプ。だが、怒るもののそれは野球部に対しての真剣さの現れでもある。部員たちはめっちゃ嫌ってるが(めっちゃ怒るから)なんだかんだ言っていい先生だったよなあの人ってなるタイプの先生。

○細川の家　昼（夏休み）

（棚の上にたくさんの賞状、メダル）

（細川と宮崎、向かい合って勉強している）

宮崎「なぁ」

細川「んー？」

宮崎「野球、やっとってよかったと思うか？」

（細川、手をとめる）

細川「んー…」

（黒画面に白文字で「もう終わった青春白書」）

細川「わからん」

○教室　夏休み明け　朝礼前

（窓際に座る細川）
（細川、ぼうっと窓を見つめる）
（宮崎、隣の椅子をひき勢いよく座る）
（細川、宮崎の方を見る）
宮崎「よぉ」
（宮崎、細川に軽く手を振る）
細川「ん」
（細川、振り返す）
宮崎「調子はどないや？」
細川「まあまあや」
宮崎「そうか」
宮崎「…甲子園見たか？」
細川「逆に見たと思うか？」
宮崎「いいや」
細川「よな」
（宮崎、足を組む）
宮崎「俺ら、弱かったなぁ」
細川「なぁー」
（細川、背もたれに寄りかかり上を向く）
細川「あんだけ筋トレしてさぁ」
（回想　筋トレする細川）
宮崎「走りこんでなぁ」
（回想　ランニングする宮崎）
細川「もうやめたいやめたい思いながら練習してなぁ」
宮崎「結果一回戦コールド負けて！」
細川「な！」
（細川、宮崎の方に身を乗り出す）
細川「しんっじられへんくらい弱かったよな俺ら」
宮崎「ポンポンポーンてやられたな！」
細川「ほんま逆に気持ちよかったわ！」
細川・宮崎「あっはっはっはっはっはっはっは！」
（二人、手を叩いて笑う）
細川「はぁー…」
（細川、笑いからフェードアウトしてため息）

（細川、机に突っ伏す）
（宮崎、細川を見る）
細川「あんま笑えん」
宮崎「あんだけ笑っといて？」
細川「お前もやろ」
（二人、ため息）
細川・宮崎「はぁ～」
（宮崎、足を組みなおす）
宮崎「お前今から何して生きるんや」
細川「何ってそら受験勉強やろ」
（宮崎、勢いよく頬杖をつく）
宮崎「ちゃうやん！」
（驚いて宮崎の方を見るクラスメート）
細川「声でっか。何？」
宮崎「なんか、こう、でっかい夢みたいなさぁ」
細川「お前まだこの歳にもなってそんなこというん？」
宮崎「先々月まで全国目指してた俺らにいえることか？」
細川「まぁ確かにせやけども」
宮崎「なぁ細川」
（細川、宮崎の方を向く）
（宮崎、親指で自分をさす）
宮崎「俺今から世界に名を轟かす映画監督とか目指したるわ！」
（顔を元に戻す細川）
細川「ほーん」
宮崎「もうちょっと興味もって？」
宮崎「なんかこう、ホテイソン・スピルバーグみたいなさぁ」
（宮崎、腕をおろす）
細川「誰やねんそれ」
宮崎「あれ、違ったっけ」
細川「語感は似とるけど全然ちゃうわ。」
宮崎、スマホを取り出し調べる
宮崎「あ、ほんまや。スティー　ヴンか」
細川「せや。」
宮崎「お前は物知りやなぁ」
宮崎「そんな物知りな細川くんには」
（細川、宮崎の方を向く）

宮崎「あるんか？」
方向三つくらい変えて3カットで二人を映す
細川「夢？」
（宮崎、うなずく）
宮崎「夢」
宮崎「だってお前、野球大学でやる訳ではないやろ？」
細川「…おう」
（細川、少し沈黙）
細川「なんもないなぁ」

○細川の家　夕方

（細川の家）
（玄関の扉があく）
細川「ただいま」
細川母「おかえり」
（母の声だけが遠くから聞こえる）
（扉閉じる）
（細川、座って靴を丁寧に脱ぎ始める）
細川母「受験勉強は順調？」
細川「おう」
（細川、靴を脱ぎ終わる）
細川母「晩御飯もうすぐやからねー」
細川「うん。りょうかい」
（細川、自分の部屋に入る）

○細川の部屋

（たくさんの賞状、メダル、記念写真）
細川「夢ねぇ」
（細川、グローブを出してくる）
（くたびれたグローブ）
（細川、床にあぐらをかいて座る）
（細川、グローブにはさまれたボールをとりだす）
（細川、グローブをはめる）
（細川、グローブに何度もボールを投げる）
（細川、ため息をつく）
細川「ほんまに努力してきたのになぁ」

細川「終わるのは一瞬やったなぁ」
（細川、記念写真を見る）
細川「俺、野球やってきて正解やったんやろか」
（細川、記念写真をぼうっと見つめる）
細川母「ごはんよぉー」
（細川、扉の方をむく）
細川「うぃー」
（細川、向き直り、グローブを片付ける）
（細川、部屋を出ていく）
（閉まる扉）

○高校　昼休み

（細川と宮崎、隣に座って弁当を食べている）
（二人とも横向きに座りながら体だけ前を向いている）
宮崎「なぁ、知っとるか？」
細川「なんや？」
（細川、食べながら返答）
宮崎「今度新作の映画公開されるらしいねん。見に行かん？」
（細川、顔を宮崎の方を向ける）
細川「誰のやつ？」
（宮崎、首をかしげる）
宮崎「えっと、確かサムライ・ミーっていう」
細川「誰じゃその幕末映画監督は」
細川「区切るとこちゃうねんサム・ライミや」
宮崎「そんなことはどうでもええねん」
細川「よくないわ……」
（宮崎、突如考え込む）
細川「どしたん？」
宮崎「いや、そいやその日試合やったなと思って」
細川「あいつらの？」
宮崎「おう。お前見に行く？」
細川、少し考え込む
細川「…いや、ええわ。勉強あるし」
宮崎、細川の肩を組む
宮崎「嘘こけお前勉強飽き飽きしとるやろ。かわええ後輩の試合やんけ見に行こや」
細川、宮崎の肩を組み返さない

細川「いややわあんなごっついのんどこがかわええねん」
宮崎「かわええやろがあのドス効いた声とか」
（回想：部員たちのドス効いた声で「こんにちは」）
細川「どこがやねん」
細川「とにかく俺はいかん」
宮崎「なんでぇや」
細川「会いにくいんや一方的に」
宮崎「古谷か？」
　細川、組まれていた腕を外して宮崎の方を向く
細川「そうや」
宮崎「あいつお前のこと慕っとったし別にお前のことなんも思てないて」
細川「あいつはせやろうけどさ…」
　細川うつむく
細川「俺、最後の最後であいつにポジションとられたやん？」
細川「どうしてもあいつに対してモヤッとした感情を抱けずにおれんのや」
宮崎「…それはしょうがな」
　細川、ガバッと宮崎の方を向く
細川「ちゃうやん！！！」
　細川、向き直り顔に手を当てうつむく
細川「あいつが頑張った結果やしそんな感情抱きたくないやんか…」
　宮崎、驚いた表情と共に細川の肩に手をおく
宮崎「お前まだ野球に縛られ続けてんのか？」
細川「…せや。多分俺は一生このまんまや」
宮崎「お前なぁ…終わったことうっじうじ考えとっても仕方ないやろ」
細川「お前みたく前だけ向いて生きれたら苦労はせんわ」
　宮崎軽く笑う
宮崎「こうやって生きてやんと俺潰れてまうわ」
細川「…せやな」
　少し沈黙
宮崎「まぁとりま行こか。試合」
細川「話の脈絡ゆう概念捨ててきたん？」
宮崎「そんなものないない。じゃあそゆことで～」
　宮崎、自分の席に戻っていく
細川「ほんまあいつ…」
　細川の席に宮崎の弁当袋
細川「弁当忘れてっとるし」

チャイムが鳴る
細川、ノートの端をちぎりでっかく「どアホ」とかいて弁当袋に入れる

○高校 授業中

細川、突っ伏して眠っている
場面はそのままで野球部の顧問の罵声だけ流す(過去のものだと分かるようにちょっとエコーかける)
顧問「細川またおまえか！！」
顧問「なんべん言ったら分かるんやどアホちゃんとやれ」
顧問「なんで今の球打ちにいかんかった？」
顧問「もうええ、細川。交代や」
エコー終わり
白沢「おい！おい！」
白沢の声は最初は小さく徐々に大きく
白沢「おい！細川！」
細川肩をビクッとさせて起きる
細川思わず立って前を向く
細川「すいません！！」
クスクスと笑うクラスメイト
真顔で細川を見つめる宮崎
教壇の上で腕を組んでいる白沢
白沢「お前また寝とったんか。ちなみに問13の答えは？」
細川「わかりません」
白沢「やろうな。お前特別補習も入っとるし大丈夫なんか？」
細川、困ったように笑う
細川「……多分、なんとかします」
白沢、苦笑い
白沢「ホワッとしたこと言うなぁ。」
白沢「まぁ座れ。もう寝るなよ」
細川「はい」
細川、座ってペンを持ってノートを見る
白沢、黒板の方に向き直る
白沢「えーでは続きを。余剰定理の復習を」
クラスメイト、クスクス笑う
白沢、黒板の手を止めてゆっくり振り向く
うつらうつらする細川

白沢「細川――――――――っっ！！」
細川、ビクッとして起きる
白沢「おまっお前ほんまに秒やな！？」
細川「すいません」
細川、笑いながら頭をかく

○放課後 補講中

白沢、黒板の前で授業をしている
細川、窓際に座っている
白沢「じゃあ、問14と15を今から各自でといてみてくれ」
教科書の問題文を見てしかめっ面をする細川
練習中の声が聞こえる
窓の外を見る細川(5秒程)
細川にピントを当て後ろの背景はぼかし、そこにつかつかと歩いてくる白沢を写す
丸めた教科書で軽く細川の頭を叩く白沢
白沢「お前なぁ……気になるんか？」
細川、叩かれた箇所を軽くさする
細川「えぇ……まぁ……」
白沢も窓の外を見る
細川「でも、時々ですけど」
白沢、細川を見る
細川「考えるんですよ。血反吐吐くまで努力して、何かを犠牲にしてでも頑張って、それでも報われたわけではなくて」
細川「なんか、俺野球やっててよかったんかなって。楽しかった思い出も少なくて、あの野球に捧げた9年間、無駄やったんちゃうかなって。辞めた今になって分からなくなったんです。」
細川、腕を組んで上をむく
白沢「俺は野球部の顧問やったわけちゃうし、お前の野球しとる姿は時々見かける程度やったけど」
細川、白沢を見る
白沢「お前、今の言葉嘘やろって思うくらいめっちゃくちゃ楽しそうに野球やっとったけどな」
細川「……俺がすか？」
白沢「おう、お前や」
白沢「多分な、熱烈に打ち込む分にはそら全部が全部ハッピーとはいかんやろうけどな。そ

れを感じさせへんくらいにお前はかっこよかったぞ」
細川、目を丸くして驚いたあとに微笑む
細川「ありがとうございます」
白沢ニヤケながら聞く
白沢「それはそうと問はとけそうか？」
細川、申し訳なさそうに笑う
細川「全然わかんないです」
白沢「よっしゃ教えたろ。ここは……」

○補習の帰り道

細川、荷物を持って練習場の入口近くを１人で歩いている
細川「数学未だにホンマにわからんなぁ」
「これから俺どーなるんやろか」
細川、遠くに歩いている古谷を見つける

ここから回想シーン　練習終わり
顧問と細川立って話している
顧問「細川……すまん」
「インハイ予選やけど古谷を正キャッチャーにしようと思ってる」
細川「……そうやと思てました」
「あいつの方が上手いです。俺より何倍も。俺も頑張ってきたつもりやけど、努力も熱意も桁違いです。敵いません」
談笑している古谷の顔をうつす
「古谷によろしく言っといてください」
顧問「……分かった」
古谷の方へ歩いていく顧問
拳をギュウウウウウぅっと握りしめる細川
細川ナレ「ずっと心の底にあったどす黒い劣等感はこの時に確固たるものとなった」
「実力で適わないのなら、せめて汚い感情なんて抱きたくなかった」
「この一方的な負の感情が伝わってしまっていたのなら、古谷はどう思っていたのだろうか。嫌悪なのか、それとも嘲りか、、」
回想シーン終わり

古谷、細川に気づく

古谷、帽子を取り大声で叫ぶ
古谷「こんにちはーーーーーーーっっ！！！！」
ハッとする細川
古谷、細川のところへダッシュで来る
それを見て思わず笑う細川
古谷「こんにちはっ！お元気ですか？」
細川「おっおう。元気やで。お前は？」
古谷「すこぶる快調です！」
細川「そうか、そうか、、、」
細川、涙を流し始める
古谷「えっえっ先輩なんで泣いて」
言われて気づき、涙を拭って驚く細川
少しして目頭を押さえ、笑い始める
細川「あーもーほんま」
古谷「せっせんぱ」
細川、微笑む
細川「お前には、敵わへんなぁ」
古谷「先輩は俺の事敵わへんって言ってくれはりますけど憧れだったんすよ？」
細川笑いながら
細川「俺をぉ？嘘つけお前」
古谷は真剣に真顔で
古谷「ほんとです！！中学の頃から先輩のことずっとずっと憧れてたんですよ！！」
細川驚いた顔の横顔
細川、フッと笑う
細川、古谷に近づいてうつむきながら肩に手をポンとおく一連の流れのバックで細川ナレ「お前ほんま俺の気持ちなんて何も知らんくせにさぁ」
細川「めちゃめちゃ嬉しいこと言ってくれるやんけ」
細川、笑顔で古谷の顔を見る
細川「頑張れよ」
古谷「はい！」
細川「練習いってき。引き止めてすまんかったな」
古谷「いえいえ！こちらこそです！全然大丈夫です！失礼します！」
一礼して練習場へ向かう古谷
細川「おう。あーもうほんまこんな」
目頭をおさえる細川
宮崎、後ろから登場し細川の肩を勢いよく組む

宮崎「よーーーう泣き虫さんよう」
細川「見とったんかお前どっからや」
宮崎「後輩見つけて気まずそぉにしてるとこからかな」
細川「全部やんけほんま」
　宮崎、練習場の方を見る
宮崎「なんか喝入れの言葉入れんでええんか？あいつらに」
　宮崎、にやけながら細川を見る
細川「あぁ……」
　細川、顔を上げグラウンドを見渡す
細川「なんか、グラウンドごっつう広う見えるわ」
　宮崎もグラウンドを見渡す
宮崎「奇遇やな。俺もや」
細川「もう俺らあっち側には一生行かれへんねんなぁ」
　宮崎、にやけながら細川の顔を見る
宮崎「寂しいか？」
　細川、グラウンドを見て微笑みながら
細川「寂しいわ。めっちゃくちゃに」
　宮崎もグラウンドを見て微笑んで
宮崎「そうか」
　細川、思いっきり息を吸う
　不思議そうに見つめる宮崎
細川「がんばれよーーーーーーーーーーっっ！！！！」
　びくっとする部員たちと顧問
　その後にニヤニヤしながら細川の方を見る古谷
　チラチラと細川をみる通行人
　宮崎、大爆笑
宮崎「嘘やろお前」
部員たち「はいっっっっっ」
　部員たち帽子とってお辞儀
　手を振り返し顧問に一礼する宮崎、細川
細川「声、相変わらず可愛げあらへんなぁ」
宮崎「ほんまなぁ。」
細川「……やっぱさぁ」
宮崎、細川の方を向く
細川「俺、野球大好きやわ」
宮崎、にやける

宮崎「そうか。俺もや」
宮崎、帰り道の方向へ向く
宮崎「そろそろ帰るか」
細川、にやけながら
細川「せやな」
２人が歩く後ろ姿

曲：「空に笑えば/wacci」